# 次の新宿は、想像を超えてくる。

## 交流、連携、挑戦がうまれる新宿へ

新宿は、1885年の新宿駅の開業により、東口の繁華街や西口の超高層ビル群の形成など、地区ごとに個性あるまちが発展してきた。新宿駅は、駅や駅ビルの老朽化が進んでおり、築50年以上の建物が多い。そこで東京都と新宿区は、更新期を迎えた駅ビルの建替えを契機として、駅、駅前広場、駅ビルを一体的に再編するため、「新宿の拠点再整備方針～新宿グランドターミナルの一体的な再編～」を2018年3月に策定した。

この方針では、線路上空デッキの新設や歩行者優先の駅前広場への再構成、改札周辺や駅前広場に面した位置への地上・地下・デッキレベルを結ぶバリアフリーの縦動線の配置などにより、誰にとっても優しい次世代の「新宿グランドターミナル」としていくことが示されている。また、グランドターミナルを一体化し、駅とまち、まちとまちをつなぐ歩行者空間を創出するほか、線路上空にグランドターミナルの核となる広場を整備し、駅周辺の個性あるまちと連携ができる賑わいの空間をつくりだしていくという。

第一弾として、すでに西口駅前広場の工事や小田急百貨店の解体工事などが進められており、2040年代の完成を目指し、新宿グランドターミナルの再編がいよいよ本格始動する。

## 線路上空に東西デッキを整備

新宿駅は、東西の移動が課題となっており、長らく甲州街道や青梅街道への迂回が発生していた。2020年7月、地下の東西自由通路が開通したことで、歩行者の利便性が向上したが、さらに回遊性を向上させていくため、線路上空に東西デッキを新設する。2035年度の概成を経て、2046年度の完成を目指す。

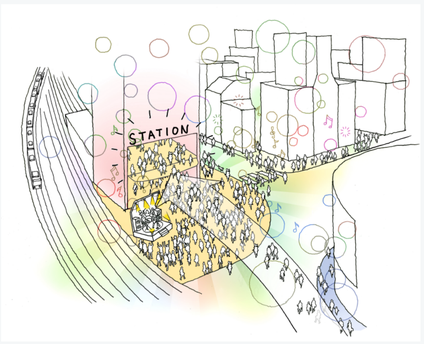
## 東口駅前広場を歩行者優先の空間構成へ

多くの人でにぎわいを見せる東口駅前広場は、歩行者が滞留できる空間が不足している。広場の再編にあたっては、車道の一部と駐車場出入り口を線路側に移設することで歩行者空間を拡大する。さらに、東西自由通路や線路上空の東西デッキの受入空間など、分かりやすい位置にバリアフリーの縦動線を確保する。

## 多様な人や情報が交わる空間を目指す西武新宿駅周辺

新宿駅東口から歌舞伎町までを分かりやすくつなぎ、まちの回遊性を向上させる歩行者ネットワークや、新宿グランドターミナルの多様な人の活動、賑わい、情報と連携できる空間の整備を目指している。

また、西武新宿駅前通りと靖国通りの交差点や周辺の道路から西武新宿駅を認識できる開放感のある空間の整備について検討を進めている。




## にぎわいと交流をうみだす、立体都市広場

圧倒的な交通利便性を誇る新宿だが、歩行者が憩い、寛げる空間が不足している。そこで駅ビル内の低層部や中層部など、多層にわたり誰でも利用できる広場を整備する。

さらに、新宿駅西口地区開発計画と新宿駅西南口地区開発計画が連携し、建物中層部に観光情報発信や体験ができる施設やにぎわい施設と一体となった、南北400メートルに渡る滞留・回遊空間「スカイコリドー」を整備。屋内外の空間が2つの開発計画で複層的に連続し、開放的な広場空間をうみだす。新宿のまちを眺望できるのも特徴のひとつだ。

## 2020年代後半から、新宿に超高層ビルが続々竣工予定

新宿駅西口地区で小田急電鉄および東京地下鉄が開発するビル（写真：左）は、地上48階、高さ約260メートルで2029年度竣工予定している。

京王電鉄および東日本旅客鉄道が開発するビル1棟目（写真：右）は、新宿サザンテラスに面し、地上37階、高さ約225メートル。2棟目（写真：中央）は、現在ルミネ1と京王百貨店のある場所に計画しており、2040年代の完成を目指している。

開発されるビルには、オフィス、商業、ホテルなどの複合機能を備え、今後周辺開発と連携し新宿エリア全体の活性化に寄与していく考えだ。

## 人中心の西口駅前広場へ

現状、自動車中心の空間構成となっている西口駅前広場は、駅ビルの建替えとあわせて人中心の駅前広場に再編する。地上広場は線路上空の東西デッキと、地下広場は東西自由通路と接続するなど、歩行者の回遊性向上も図りながら「新宿グランドターミナル」を一体的に再編していく。

Shinjuku Grand Terminal

# 新宿グランドターミナル

odakyu　KEIO　西武鉄道　東京メトロ　JR東日本　東京都　新宿区 SHINJUKU CITY　渋谷区 Shibuya City

※記載内容は、今後の検討・協議により変更の可能性があります。